

徳島大学弓道部

正射必中 ——その一瞬のために

前号で紹介した剣道部と同じく、開学以来の伝統を持つ弓道部。7月に愛媛県松山市で開催された「第54回四国地区総合体育大会(四国インカレ)」では、男子が昨年に続いて団体戦2連覇、女子も団体で優勝しました。また「西日本学生弓道」でも、女子が昨年に続き2年連続で団体優勝するなど、めざましい活躍が続いています。

「練習による団結力の結果です」と、主将の前田さん。部のモットーは「挑戦・努力・発見・確固たる強さを求める」。そして常に「正射必中」を追求しています。正しく射た矢は必ず中(あた)る、という意味ですが、これは形だけでなく心理状態や他の要因も含んだ言葉です。「練習はきびしくしていますが、楽しむときは思いっきり楽しむ。みんなで遊びに行ったり、部活以外でのつきあひもあり、仲がいいんですよ」

現在の部員数は男子17、女子12名。

「かっこいいから」という理由で入ってくる人が多いんじゃないですか」という前田さん自身も、



入部の理由は「かっこいいと思った」とのこと。しかし入部してから、本当のおもしろさかわかりました。

「的に当たった瞬間の喜びと、そこに至るまでの精神的なプレッシャーが醍醐味です。同じようにやっても結果は毎回違うからおもしろいんですね」

たしかに、呼吸を整えながらゆっくり弓を構え、体中のエネルギーと精神力を一本の矢に充填していきます。その連の動作(弓道八節)は美しく、そして的に向かって放たれた矢が、見事に当たったときの感覚は見ている者にも感動を与えてくれます。

弓道は身体をそう動かさないので楽に見えますが、精神力だけでなくなかなかの体力も必要です。しかし日本古来の武術にはそれ以外のものがあります。

「礼儀作法から入りますから、姿勢が良くなったり、声の小さかった人がきちんと返事ができ



主将 [おち あきのぶ]
越智章展 医学科4年

るようになったり、部活での練習が生活の中でも役に立っています」

練習は総合運動場で、毎週月・水・木曜日の午後5時から7時半までと、土曜日の午前9時から正午まで。入部希望者はまず、練習の見学に来てほしいとのことだ。



学生相談室

ホット・ステーション



林 和代
受付[インターカー]

「履修登録の仕方がわからなくて...」「授業に出ないんですけど...」「今日口誰ともしゃべっていない...友達ができません...」

学生相談室に来て下さる学生の皆さんの悩みは様々です。中には涙を浮かべて話して下さる方もいます。インターカーとの小さな出会いです。この出会いを大切に、笑顔を取り戻してもらえようとのケアのために、相談員やカウンセラーの先生方を紹介します。

多くの学生さんは先生方のアドバイス、サポートを受け、来室することが学生生活の一部になり少しずつ元気になっていきます。そし



て、週1回のカウンセリングが2週間、1ヶ月とあいていくころには、キャンパスで友達と笑顔で歩いている姿に出会います。小さな出会いが大きな出会いへと広がっていったのです。相談室は、小さな出会いの場です。

■自分発見

様々な思い、悩みを持って来室した学生さんはカウンセリングを通して気づけなかった自分に気づいたり、居場所を見つけます。また、カウンセラーにお話を聞いてもらうだけでなく、心理療法としてアートセラピーを行います。自分自身を見つめることもあります。アートセラピーについて、一部紹介してみましよう。

●●●「箱庭療法」

人形、動物、乗り物、建物、植物などのミニチュアを砂の入った箱に自由に並べる。

●●●「カラーージュ療法」

雑誌、パンフレット、新聞などから自分の心惹かれるもの、何か心にとまるものの切り抜きを画用紙に貼り付ける。

面接室から笑い声が聞こえることがあります

す。自分の思いを表現しながらカウンセラーとお話をしているのでしょうか。相談室は、自分探しの場で自分のところに気づく場です。

■ホット・ステーション

相談室は特別な所ではありません。どのようなことでも、気軽に学生相談室をお尋ねください。秘密は厳守します。

「出会うの場」「こころに気づく場」なんでも話せ、ホットするところ。

相談室は、キャンパスのホット・ステーションでありたいと思っています。



学生相談室

eメール gkseisod@jim.tokushima-u.ac.jp
tel 088-656-7637